

報道関係各位

2017年11月6日

## 2018年3月期 第2四半期決算（IFRS） 上期の業績は予想通りに推移

株式会社 LIXIL グループ（本社：東京都千代田区、社長：瀬戸欣哉、以下 LIXIL グループ）は本日、2018年3月期第2四半期（上期）の決算※<sup>1</sup>を発表しました。

上期の売上収益は、本年8月21日に発表した業績予想通りに推移し、前年同期比1.7%増の8,099億円※<sup>2</sup>と増収となりました。LIXIL Water Technology（LWT）事業が国内外で引き続き堅調で、LIXIL Kitchen Technology（LKT）事業の国内売上も好調に推移したことが、増収に寄与しました。

事業利益※<sup>3</sup>は、前年同期比4.5%減の407億円※<sup>2</sup>となり、業績予想の400億円を上回りました。LWTおよびLKTの国内事業が利益拡大に貢献し、売上総利益率も向上しました。マーケティング活動への投資やIT関連費用の増加を受け、全体的には減益となったものの、積極的なマーケティング活動は国内売上の増加に寄与しました。事業利益率は、前年同期の5.3%から低下し、5.0%でした。

非継続事業を含む当期利益※<sup>4</sup>は、前年同期における外貨建て借入金円転等による為替差益の剥落や、Permasteelisa S.p.A（以下 Permasteelisa）の株式譲渡決定に伴う一過性損失の影響を受け、前年同期より113億円減少し、128億円となりました。

※<sup>1</sup> 国際会計基準（IFRS）に基づく。

※<sup>2</sup> 売上収益、事業利益ともに継続事業ベース。2017年8月のPermasteelisaの株式譲渡決定を受け、同社の売上収益および事業利益は、非継続事業に分類した。

※<sup>3</sup> IFRSの事業利益は、日本会計基準（JGAAP）の営業利益に相当。

※<sup>4</sup> 親会社の所有者に帰属する四半期利益。

### LIXIL グループ社長兼 CEO 瀬戸欣哉のコメント

「第2四半期には、事業ポートフォリオの最適化に加え、日本および海外事業のさらなる成長に向けて投資を継続しました。本日発表した上期業績は、予想通りに推移し、通期業績予想の達成に向けて順調に進捗しています。さらに、2019年3月期を初年度とする新中期経営計画『Toward Sustainable Growth（持続的成長に向けて）』を策定し、新たなスタートを切る準備が整いました。LIXIL グループでは、この中期経営計画に基づき、差別化された製品・サービスの提供をはじめとして、競争力強化と利益率向上に向けた施策を推進し、長期的な成長につなげていきます」

### セグメント別決算の概要

**LIXIL Water Technology（LWT）** は LIXIL、INAX、GROHE、American Standard などのグローバルブランドを展開しており、上期の売上収益は、前年同期比7%増の3,418億円、事業利益は同7%増の325億円と増収増益となり、事業利益率は10%でした。国内事業とともに、特に欧州、中国の海外事業が好調で売上増に貢献したのに加え、中高級価格帯製品の売上伸長やシナジー効果により、増益となりました。INAXの技術とGROHEのデザインを融合して生まれたシャワートイレ「GROHE Sensia Arena」は、発売からわずか1年でドイツのシャワートイレ市場において、20%のマーケットシェアを獲得したベストセラー商品となりました。

**LIXIL Housing Technology（LHT）** は、主に日本国内の新築、リフォーム市場向けに製品・サービスを提供しており、売上収益は、前年同期比2%減の2,652億円、事業利益は同13%減の170億円、事業利益率は6%でした。売上収益は、前年同期に実施したハイビック株式会社の売却の影響を受け減収となりましたが、

この影響を除く実質ベースでは、増収となりました。事業利益については、この事業売却に加え、IT費用の増加やマーケティング投資に伴う販管費増加による影響を受けました。また、LHTは、新たな分野への投資も進めており、第2四半期には、株式会社LIXILが、東京電力エナジーパートナー株式会社と連携し、日本におけるネット・ゼロ・エネルギー・ハウス（ZEH）の普及促進に向け、合弁会社を設立しました。

**LIXIL Building Technology (LBT)** は、建設プロジェクトを手がけており、売上収益は前年同期比2%減の514億円、事業利益は同1%減の19億円、事業利益率は4%でした。LBTは、売上収益、事業利益ともに前年同期とほぼ同水準でしたが、収益性の改善に向けて、引き続き選別受注の徹底を図っています。

**LIXIL Kitchen Technology (LKT)** は、システムキッチンおよび関連製品を提供していますが、売上収益は、前年同期比7%増の582億円となり、事業利益は前年同期から3.3倍の26億円と大幅に増加し、事業利益率は5%でした。日本国内における積極的なマーケティング活動により、主力製品である中高級価格帯のシステムキッチン「リシェル」および「アレスタ」シリーズの売上が増加し、さらに賃貸アパート向けのコンパクトキッチンの売上也好調だったことから、増収を達成しました。また、増収に加え、操業度向上による製造コストダウンによって、事業利益も改善しました。

**流通・小売り事業**は日本でホームセンター事業を展開していますが、売上収益は、前年同期とほぼ同水準の875億円になりました。事業利益は、一過性費用の発生により、前年同期比5%減の46億円となり、事業利益率は5%でした。

**住宅・サービス事業等**は、住宅関連ソリューションを幅広く展開しており、売上収益は前年同期比26%減の239億円、事業利益は55%減の11億円、事業利益率は4%でした。これは、前年度の株式会社日本住宅保証検査機構（JIO）の非連結化と、前年同期に進行中だった建売物件プロジェクトの完了の影響によるものです。

## ■ LIXIL、LIXIL グループについて

### LIXIL について

株式会社LIXILは、戸建住宅・マンションからオフィス・商業施設などの非住宅向けに、多岐にわたる建材・設備機器および幅広い住関連サービスを提供するグローバル企業です。LIXIL、American Standard、GROHE、DXV、INAX、Permasteelisaをはじめとする業界をリードする数々のブランドを有し、水まわり製品から内外装建材をはじめとする先進的な製品・サービスの提供を通じて、世界中の人びとのより豊かで快適な住まいと暮らしの実現に貢献しています。現在、世界150カ国以上で事業を展開し、70,000人超の従業員を擁しています。

LIXIL ウェブサイト：<http://www.lixil.co.jp/>

### LIXIL グループについて

株式会社LIXILグループ（証券コード：5938）は、中核事業会社である株式会社LIXILをはじめ、株式会社LIXILビバ、株式会社LIXIL住宅研究所などを傘下に持つ持株会社で、東京証券取引所および名古屋証券取引所に上場しています。多岐にわたる建材・設備機器の製造、販売に加え、ホームセンター事業や住宅フランチャイズチェーンの運営、不動産サービスなど、幅広い住関連サービスを展開しています。2017年3月期の連結売上高は1兆7,864億円\*です。

LIXIL グループウェブサイト：<http://www.lixil.com/jp/>

※国際会計基準（IFRS）ベース